

ハツ面川の魚

～希少種とただの魚～

イバラトミヨが生息していることで有名なハツ面川ですが、実は、絶滅危惧ⅠB類（EN）のホトケドジョウとキタノアカヒレタビラ、絶滅危惧ⅠⅠ類（VU）のメダカも当たり前のように生息している貴重な川です。

ホトケドジョウの名は、冷たい湧水を守る仏様という意味では名付けられたそうです。でも、遊佐では「ウマ（ノ）クソドンジョ」と呼ばれています。八日町の高橋石雄さんによると、「この辺では、あちこちに落ちていた馬のクソのようにどこにでもいたから」だそうです。

また、平成19年、京都大学大学院理学研究所科の北村淳一さんの遺伝子調査では、ハツ面川のキタノアカヒレタビラが他の地域のものとは違っている固有種（遺伝子の違いが生じるくらい大昔から生息していたということ）であることがわかって、学会でも発表されました。

これらの希少種と呼ばれる生き物も、希少種だけでは生きてはいけません。他のただの生き物がいてこそその希少種です。一見つまらないように見えるただの魚、ただの生き物に向けるわたしたちのまなざしも大切です。

ハツ面川をとりまく環境は、豊かな生態系を育んでいます。地域の方々の維持管理のたまものです。

絶滅危惧ⅠB類（EN）：近い将来における絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧ⅠⅠ類（VU）：絶滅の危険が増大している種

（環境省：レッドデータリストより）